校友時報

能高新聞部
県北総体
号外

陸上 原田 二〇〇MMを制す

六十年度県北総体が、去る五月十一日から十三日まで行われた。各部とも例年以上に、力と技を発揮した戦いぶりを見せてくれた。中でも、陸上部の原田は二種目を征覇し、期待にこたえてくれた。

陸上 大会新続出する

▼一〇〇M
一位 原田 修 11秒1 新
二位 安田 晋 11秒12 新
六位 沢田 峰登 11秒83

▼二〇〇M
一位 原田 修 22秒28 新
三位 安田 晋 22秒82
五位 沢田 峰登

▼四〇〇M
五位 平川 幸美 51秒97

▼八〇〇M
四位 袴田 誠 一分16秒4 新

▼一〇〇MJH
五位 大高 晴久 17秒30 新

▼四〇〇MH
一位 平川 晋 57秒97

▼四×一〇〇Mリレー
二位 四×四〇〇Mリレー 3分29秒5 新 42秒50

▼棒高跳
四位 田中 聡 3M80

▼走幅跳
二位 原田 修 6M86 新

▼三段跳
六位 安岡 則和 6M32
六位 安岡 則和 12M89

▼砲丸投
二位 大塚 幸喜 13M83

▼円盤投
二位 大塚 幸喜 40M86

▼総合
三位 能代高校 17点

陸上競技は、第一、二日目は晴天に恵まれたが、三日目は午後から小雨にみまわれた。今年は、従来通りの種目に加えて、新しく女子三〇〇Mが設けられた。本校には、故障者もいて記録の伸びが心配されたが、五種目で新記録を出すなど活躍した。特に一〇〇M・二〇〇Mではそれぞれ入賞者六人中三人が入賞、四〇〇Mリレーも新記録で二位に入賞と、短距離では能代工業と共に上位を占め、能代勢のレベルの高さが光った。

選手達は、自己ベストを目標にして大会に臨み、そのほとんどを達成し満足していた。

「自信はつきました。うれしいけどやはり目標は全県、東北、インターハイで勝つことです。」と鳳田君が語ってくれた。

バレー 予選 鳳鳴に惜敗

▼二回戦
本校 2 (15-4, 15-9) 0 大館東
本校 0 (13-15, 13-15) 2 鳳鳴

一日目の大館南戦では、好調なすべり出しから、終始相手をものともせず圧勝した。一セット目、相手校のミスが目立ち、それにつけいるように本校の攻撃が始まった。本校は守りも堅く、相手の攻撃に結びつけ、どんどんポイントを加えていった。特にエース田中の長身（一九二センチ）を生かしたブロック、力強いスパイクはもちろんのこと、三本連続したジャンプサーブは相手校の他、観客をも驚かせた。

二セット目では、初め少しリードされたものの、堅い守り、松森・小川のスパイクや田中のジャンプサーブなどで、すぐ取り返した。本校に少々のミスはあったものの点数には響かず大差で圧し切った。選手の話によると、キャプテン以外は決して好調とは言えなかったが、"勝てる"という自信で乗り切ったそうである。

優勝候補という二つともあって選手一人一人に堅さがみられた。立ち上がりの調子は決して悪くなかったものの守りのミスが目立ち、また主力の田中のスパイクが鳳鳴にブロックされるなどして一挙に11-7までリードされた。討合はこのまま遠ざかに思われたが本校の守りが立ち直り、スパイク、フェイントなどを効々と決め14-13までに追いついた。この時すでに本校ペースであった。が、土壇場で本校にサーブミスがあり、これが流れを変える結果となった。その後スパイクを決められるなどして長いサーブ権の取り合いの末15-13と一セット目をとられた。

二セット目では本校が立ち上がりを攻め一時6-0までリードした。しかし鳳鳴の三枚ブロックにスパイクを止められるなどして同点に追いつかれ後半にもつれこんだ。後半では両校とも一歩も譲らずシーソーゲームをくり返したが、ついに本校が力尽き結局一セット目と同じく15-13で敗れた。

卓球 団体 一歩及ばず 3位！

▼団体戦
一回戦 能代 3-0 二ツ井
二回戦 能代 3-0 小坂
準決勝 能代 2-3 大館商

男子シングルス
決勝トーナメント
▼一回戦
本庄 1-2 美郷山（十和田）
▼二回戦
安田 2-0 工藤（十和田）
藤田 2-1 日景（大館商）
田村 2-0 成田（大館工）
袴田 2-0 金子（能代商）
▼三回戦
田村 1-2 伊藤（能代工）
安田 0-2 池田（大館商）
袴田 0-2 山内（大館商）
藤田 0-2 佐々木（能代工）

女子シングルス
決勝トーナメント
▼一回戦
吉田 0-2 佐藤（大館桂）

男子ダブルス
決勝トーナメント
▼一回戦
本庄・袴田 2-1 兎沢・児玉（小坂）
藤田・田村 1-2 佐々木・畠山（能代工）
▼二回戦
本庄・福田 0-2 伊藤・斉藤（能代工）

一回戦の対二ツ井戦は、初戦のせいか選手の動きが堅く、サーブが入らず、苦戦の連続であった。セットまでもつれこんだ試合もあったが勝利を納めた。二回戦も小坂戦で苦しいスタートであったが、すきを与えずストレートで勝利を納めた。準決勝は優勝候補の筆頭の大館商の試合、ツーコースにもちこんだ。セットカウントまでは、スマッシュを盛んに打ってくる相手に接戦の上、破れた。ベンチでは、みんな声を合わせて戦について盛盛の関先生は「惜しい・館商相手にラストのフルセットまで戦ってくれたのでよかった。ベンチも全員一つになって応援してくれた。」と語った。

男子シングルスは本校出場選手中期待の藤田をはじめ五人が予選を通過、決勝トーナメントへ進出した。

本校で最も期待された藤田はまひとつ調子がでず、二回戦から苦戦し結局三回戦で早くも姿を消した。

女子シングルスは本校からただ一人出場した吉田が予戦を通過、決勝トーナメントへ出場した。健闘はたたえられる。

藤田の関先生の話、「もう少し良い成績を取れると思ったが、でもうひとふんばりできなかったのが敗因だ。全県大会は三年生にとって最後なので、同じ失敗をくり返さないよう、全力を出してもらいたい。」

藤田・田村組は、小坂高校の島山・佐々木組と対戦。二セット目の中盤からは相手の失敗に乗じてにげ切ったものの、一、三セットは逆に三セットを重ねる相手のペースにはまってしまった。

本庄・袴田組は、巧みにサイドをねらった。対兎沢・児玉（小坂）戦では、スマッシュで攻められながらも、ニのコーナーワークを奏した。能代工の伊藤・斉藤組の多彩な攻撃の前に二セット連取され結局二回戦で敗退した。